

+Affiliated with the International Association
THE Y S MEN S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒192-0913
東京都八王子市北野台 2-10-4
久保田 貞視
TEL & Fax: 042-636-3317
E-mail: sskubota21@tokyo.yaz.jp

2026年7月

The Service Club of The YMCA

第373号

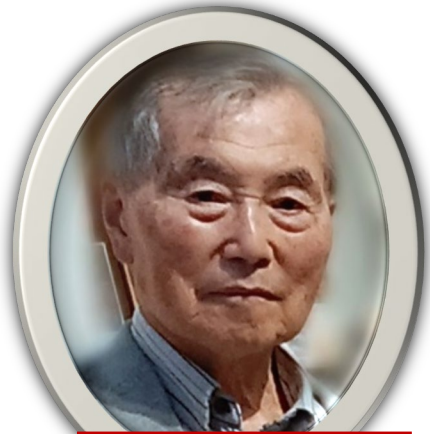
東京八王子ワイズメンズクラブ

会 長 久保田 貞視
副会長 並木 真
書 記 長谷川 あや子
会 計 稲葉 恵子
直前会長 長谷川 あや子
担当主事 西嶋 健太
プリテン 山本英次 大久保重子
並木 真

国際会長 ヨハン・ヴィルヘルム・エルトビッグ (ノルウェー) 主題「ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる」 スローガン「YMI—人生を力づける」
アジア太平洋地域会長 ラチャン・マニカーン (タイ) 主題「アジア太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる」 スローガン「地域社会を力づけ、世代を鼓舞する」
東日本区理事 山下 真 (十勝クラブ) 主題「挑戦なくして進化なし」
スローガン「響け 挑戦のブルーミュージック」
あずさ部部長 大和田 浩二 (松本クラブ) 主題「親睦とCS活動を部の原動力として外へ飛び出そう!!」～改革を引継ぎ、さらに発展させる～
八王子クラブ会長 久保田 貞視 主題「脚下照顧で進一層!」
スローガン「ユースと共に地域社会で奉仕活動を!」

2026年7月 キックオフ例会プログラム

日時: 7月11日(土) 18:00~20:00
会場: 八王子北野事務所2階 調理室
担当: C班(山本、大久保、久保田)
受付: 大久保ワイズ
司会: 山本ワイズ
開会点鐘 長谷川直前会長
ワイズソング 一同
ワイズの信条 一同
ゲスト・ビジターの紹介 長谷川直前会長
聖書朗読・感謝 並木(信)ワイズ(代読・司会)
新旧会長引継ぎ式 新旧会長
今年度の会長主題・抱負 久保田貞視会長
卓話者紹介 久保田会長
卓話: 日本遺産「霊気満山 高尾山〜人々の祈りが紡ぐ桑都物語〜」 卓話者: 八王子市文化財課(日本推進担当)併 日本遺産推進課 三原 聡(さとし)様
東京 YMCA 報告 西嶋健太担当主事
報告・連絡事項 会長・各委員
スマイル 大久保ワイズ
ハッピーバースデー 久保田会長
閉会点鐘 久保田会長



新会長 久保田貞視

先月の例会ポイント (6月)

在籍	11名	切手	計 0g
メン	9名		
メイキャップ	0名		
出席率	82%	現金	0円
メネット	1名	スマイル	13,500円
ゲスト	1名	累計	112,750円
ビジター	4名		
ひつじども	1名		

今月の聖句 (2026年7月)

イエスは町や村を残らず回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病気や患いを癒された。また、群衆が羊飼いのいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。

(マタイによる福音書 9:35~36 聖書協会共同訳)

巻 頭 言

会長主題

「脚下照顧で進一層」

八王子クラブ 会長 久保田貞視

2026 年・27 年度のクラブ会長としての巻頭言の依頼を受けてもなかなか良いアイデアは浮かんできません。

会長としては4回目、また、当クラブは設立 33 年目になりますのでこれまでの活動を振り返り、全員一致団結して活動してきましたが、一番の悩みは会員の減少です。

1999 年の第1回目の会長時の会員数は 23 人でメネットは 14 人、第2回目は 2018 年で会員数は 20 人、第3回目は 2018 年で会員数は 17 名、メネットは 6 人で、メネット会は甲府の2クラブと3クラブ持ち回りで交流を継続し、当クラブはメネットによって持っているとは一時は言われましたがこれが最後となり、メネット会は解散しました。

DBC も大阪セントラルクラブと 20 年、毎年クラブ相互に DBC 例会を開催していましたが相手クラブの解散により無くなりました。

しかし、ワイズ活動は人数が減少したものの中央大学ひつじくもとの交流は 2001 年から続き、街頭募金やチャリティコンサートは 1997 年から毎年継続しており、台湾の高雄ポートクラブとの IBC も 2009 年から相互に交流を継続しています。継続は力なりとして、今期もユースとの協働、チャリティコンサート、IBC 関係に他クラブとの交流は積極的に継続して行きたいと思ひます。DBC も持ちたいと思っています。加えて、会員増強により、地域の福祉活動や他の団体との交流も考えていますのでクラブの会員全員のご努力とご協力をお願いする次第です。



久保田年度 キックオフ例会

東日本区大会に参加して

長谷川あや子

6 月 6 日、石巻での第 29 回東日本区大会に久保田さん、佐和子さん、並木真さん、西嶋さん、長谷川の5名で参加しました。



東日本大震災から 15 年経ち「瓦礫、命、感謝。次の未来へ」というテーマで開催された東日本区大会でした。

総勢319名、そのうち西日本区から52名の参加でした。私は 5 日の前夜祭、6 日の年次代議員会、本大会、7 日のエクスカージョンー原発被災地福島ツアーに参加しました。

今大会の一番の感激は「理事表彰最優秀ブリテン賞」を



戴いたことです。山下理事はお忙しい中、各クラブのブリテンをよく読んで下さり、八王子クラブのブリテンにも時々感想を寄せて下さいました。この度の受賞理由は「ページ数の多さは全員参加の紙面作りがもたらす結果であり、とにかく記事の多彩さは目を引く充実ぶりである。クラブや部の活動の報告・連絡だけでなく、支援と連帯を持ち続けている中大ひつじくもの動きも細かく追う努力を重ねられておりクラブの特色がよく表現されている。」でした。身に余る光栄です。感謝と喜びでいっぱいになりました。紙面の多彩さは山本ブリテン委員長の企画力の賜物ですが、行事報告に留まらない原稿の充実、中大ひつじくもの毎月の投稿、躍動感あふれる写真の数々、そして校正は全員参加という積み重ねがあってこそその受賞だと思います。その他、出席率優秀賞、ハンドロップ賞を受賞いたしました。



晩餐会は石巻グランドホテルで行われましたが、美味しい食事はさることながら、さとう宗幸オンステージはとても



青葉城恋歌・さとう宗幸

懐かしく会場は熱気に包まれました。私たちのテーブルは武蔵野多摩クラ

ブの皆さんとご一緒でした。江東クラブの方からは「健太をよろしく」と頼まれました。我がクラブの担当主事、西嶋さんのことです！他クラブの方とはひとときの交流でしたが心温まるものを感じました。



翌日のエキスカージョンは福島ツアーに参加しました。南相馬市の



原子力災害伝習館の見学、小高伝道所で飯島信牧師のお話を伺い小高町歴史郷土資料室を見学しました。原発

事故から避難指示解除を経て地元に戻った方たちの故郷に対する熱い思い、復興への強い意志とご努力に本当に頭が下がりました。東京にいてはわからない事だらけでした。4代続いているという双葉屋旅館での手作りの美味しいお弁当も忘れられません。楽しくそして学びの多い大会でした。本当にありがとうございました。



Blue Music ! を考察する

YMCA やワイズメンズクラブの文脈において、「ブルーミュージック」は単に心地よい音楽を指すのではなく、「国境なき奉仕のハーモニー」や「青少年の健やかな育成」を象徴する、非常に深い意味を持つ言葉(スローガン)として使われています。具体的には、以下のような素晴らしい想いが込められていると考えられます。

1. 地球(海と空)を一つに繋ぐ「平和への響き」

国際ボランティアを掲げる団体にとって、「ブルー」は国境のない「青い地球」「青い空」「広大な海」を象徴します。言葉や文化が違っていても、美しい音楽が世界中の人々の心に等しく染み渡るように、「国境を越えて人々を繋ぎ、世界を平和な調和(ハーモニー)で満たしていく奉仕活動」そのものを音楽に例えて「ブルーミュージック」と呼んでいるのです。

2. 青少年(ユース)の輝かしい未来と躍動

YMCA の活動の大きな柱の一つが「青少年の育成」です。青春や青年を「青(ブルー)」と表現するように、「未来を担う若い世代が、それぞれの個性を活かして生き生きと奏でる人生のメロディ」を応援するという意味が込められています。彼らの成長や躍動を、希望に満ちた爽やかな音楽に見立てています。

3. ワイズメンズクラブの理念である「心の調和」

ボランティア活動は、誰か一人の力ではなく、メンバーや地域社会、そして世界の人々との「協調(ハーモニー)」があって初めて成り立ちます。青色が持つ「誠実」「信頼」「平和」というイメージの通り、「純粋な奉仕の心を持った仲間たちが集い、社会に美しい調和(善意の活動)を響かせていこう」という、クラブの気高い連帯感を表しています。 *

まとめると、この標語は「青い空の下、世界中の人々や次世代の若者たちと心をつなぐ、誠実な奉仕のハーモニーを社会に響かせていこう」という、優しくも力強いメッセージが込められた言葉だと言えます。国際サポートを行うクラブに本当にぴったりの、美しく誇り高い標語ですね。



第29回東日本区大会 メネットアワーに参加して

久保田佐和子

6月6日(土)10時からメネットアワーが開催されました。場所は石巻市の河北総合センタービッグバンの視聴覚室、会議室1。

開会の言葉・礼拝・挨拶・活動報告はメネット委員長の利根川恵子さん・数クラブからのメネット活動の報告・歌「メネットの願い」と続き、その後特別講演が開催されました。お話し下さったのは、一般社団法人・代表理事の徳水利枝さん。演題は「雄勝ローズファクトリーガーデンと私」～震災をくぐり抜け、故郷・雄勝の未来のために

できること～

徳水さんは雄勝で生まれ育ち、大震災でその雄勝は壊滅状態に。ご実家の母親、おば、いとこ

を亡くし自宅と学習塾を失いました。表題の通り徳永さんは2011年8月に自宅の跡地のバラを植えたことから「雄勝ローズファクトリーガーデン」の活動を開始。大勢の人に喜ばれるガーデンになったところに道路



跡のガーデン・雄勝花物語」として、NHK 総合テレビのドキュメント番組でとりあげられました。全国から多くのボランティアの受け入れと、語り部活動を通じて「慰霊と繋がりの場」作りに取り組んでおられるお話を映像を交えてされました。



そしてお弁当を頂いた後「押し花のアートフレーム」を作りました。すでに乾燥したお花やハーブをはがき大の特別な紙に乗せ上からアイロンを掛けていただくと我ながら“素敵な作品が出来た”と拍手！また仙台の七夕祭りに飾られた折り鶴をレイに仕立て直されてメンバーに一つづつ下さいました。心に残るお話とお素敵なお土産が出来ました。このような素晴らしいメネットアワーは関係者の方々の多大なご努力の賜物です。メネット委員長、メネットアワーのホスト委員会の皆さま素晴らしい時間をありがとうございました。

アートフレームとレイは復興の願いを込めて我が家に飾ってあります。



東日本区大会 メネットアワー



が出来た計画が出たので、近くに場所を見つけ改めて「ローズガーデン」の活動を再開。その様子は「奇



管弦楽の夕べ

久保田貞視

6月12日(金)午後7時半より、八王子市芸術文化会館(いちようホール)で高雄市立高雄中級中学校による「管弦楽の夕べ」オーケストラが開催されました。目的は台湾高雄市と八王子市の姉妹都市締結20周年を記念して高雄高級中學(高雄高校)主催で高雄市政府教育局後援によるもので同行と姉妹校の八王子東高校は協賛となっています。

演奏会一オーケストラは約50名の構成で素晴らしい



演奏会でした。演奏会の前には初宿八王子市、黒須八王子・台湾友好交流協会理事長及び荘高雄高級中学の荘校長がご挨拶されました。

この演奏会に同校を卒業され、本人の財団が協賛されている当クラブのIBCである高雄ポートクラブの張弘氏からクラブ宛に招待状が送られて来たので花輪ワイズ、稲葉ワイズ、久保田が出席。昨年高雄ポートクラブの設立25周年記念例会時に会った林慈慈さん(現在慶応大学大学院の院生も同校の卒業生であるとして来訪。彼女は12年前に当クラブ設立20周年に合わせて来王された新興高級中学中学部のオーケストラ部員として参加されている。



障害系の福祉サービスと自己決定の重要性

東京多摩スマイルクラブ 峰 毅氏

要約

本録音は、6月の例会から峰 毅氏(東京多摩スマイルクラブ)による「障害系の福祉サービス」に関する講話までを収めている。講話では、行政福祉の「申請主義」「文書主義」の原則、そして「知っている人が得をする」構造が強調された。



高齢化に伴う代表的な障害(半身麻痺、高次脳機能障害など)や、戦後日本の福祉制度(身体障害者手帳、児童福祉法など)の成立背景、各種障害者手帳(身体・

精神・知的)の申請手続き、診断書の注意点、自立支援医療制度について具体的に解説された。さらに、公務員や教員のメンタルヘルス問題、休職から復職支援(リワーク)までのプロセス、介護保険におけるケアマネジャーとの関わり方、サービスに不満がある場合の対処法も述べられ、一貫して、受け身にならず自ら情報を収集し、明確な意思を持って行動する「自己決定」の重要性が説かれた。

知識ポイント

1. 福祉サービスの基本原則と手続き

申請主義と文書主義: 全ての行政サービスは、本人からの申請がなければ始まらない「申請主義」と、口約束は無効で書面が必要な「文書主義」が基本。行政側からサービスを勧めることはない。

自己決定の尊重: 救急車の利用やサービスの決定において本人の意思が最優先される。認知症等で判断能力



が不十分な場合でも、本人の意思確認は必ず行われる。

自己決定のための情報収集: 適切な

自己決定のためには平時からの情報収集が重要。シニアクラブのような地域の集まりで生の情報を得たり、ネット情報を活用したりするなど、「知ろう」という意識が大切。

代理申請: 本人が寝たきりなどで申請できない場合は、家族による代理申請が可能。

マイナンバーカードと住民票: 行政手続きにはマイナン

バーカードが必須。また、全ての申請は住民票がある市区町村で行う必要があり、遠方で長期入院する場合は住民票を移した方が便利ことがある。

郵便物の送付先設定: 親が郵便物を管理できない場合、市役所で「送付先設定通知書」を提出すれば、子供の住所に役所からの郵便物を送付してもらえる。成年後見制度を利用すると、郵便物は後見人に送付される。

2. 戦後福祉制度の成立背景

身体障害者手帳(1949 年): 終戦後の多数の傷痍軍人への対応として制度化。戦争が福祉制度の発展を促した一例。

児童福祉法(1947 年): 東京大空襲などで親を失った子ども(浮浪児)への対応として制定。

生活支援の例: 国鉄時代の事故遺族の就労機会として



始まったキヨスクや、戦没者の遺族に販売権が与えられたたばこ屋など、戦争に起因する制度的配慮が存在した。

3. 障害者手帳の種類と申請手続き

手帳の共通必要書類: 基本的に「診断書」「写真(4cm×3cm)」「マイナンバー」の3点。

身体障害者手帳:

特徴: 手帳に障害名が明記され、原則更新は不要。

診断書: 障害種別(視覚、聴覚など)ごとに様式が異なる。東京都では「15 条指定」を受けた指定医でなければ診断書を作成できないため、大きな病院に相談するのが確実。

対象: 視覚・聴覚障害のほか、腎臓機能障害(人工透析)、スーア、HIV/エイズも対象。

精神障害者保健福祉手帳:

特徴: 具体的な症状は記載されず、2 年ごとの更新が必要。写真は必須ではない。本人が「精神障害者」という烙印(スティグマ)を受け入れられず、申請を拒否することも多い。

診断書: 様式は統一されており、比較的小規模なクリニックでも作成可能。障害年金の年金証書でも申請できる。

知的障害(愛の手帳など):

多くは1歳半や3歳児健診で指摘され、子ども家庭センターなどに繋がる。特別支援学校への入学に手帳が必要となることが多い。

発達障害:

精神障害とは異なる。放課後等デイサービスなどは手帳がなくても、ウィスク(WISC)などの心理検査による専

門的な判断(アセスメント)があれば利用可能。

医師への依頼方法: 「これを書いて」と指示するのではなく、「手帳を取ろうと思うのですが、先生どうでしょうか?」とお伺いを立てる形で相談するのが良い。

4. 高齢化に伴う障害とメンタルヘルスの課題

代表的な障害:

身体機能: 脳梗塞による半身麻痺や肢体不自由。

感覚機能: 難聴。

高次脳機能障害: 交通事故やスポーツでの頭部打撲が原因。外見から分かりにくく、記憶障害(10 秒前のことを忘れる)、行為障害(箸の使い方が分からない)、会話の逸脱(話が飛ぶ)などの症状がある。付箋メモの活用などが有効。

職場(公務員・教員)のメンタルヘルス:

若手職員で「うつ病」「適応障害」といったメンタル不調が増加。公務員は解雇しにくいと、事実上働けない職員の存在が課題となっている。

休職には必ず医師の診断書が必要。組織は本人のキャリアを守るため、まず1週間の短期病休で様子を見て、回復しない場合に正式な休職手続きに進む。

復職時は「リワーク」と呼ばれる支援プログラムで半日勤務から始め、段階的に通常勤務に戻すが、受け入れ先を見つけないのは困難で、元の職場より格下の部署に配属されがち。

精神障害というより内科的な不調に近く、心療内科の領域。過呼吸やパニックも含まれ、休職がと関連知識が必要な診断名となりうる。

5. 介護保険サービス

医療保険と介護保険の違い: 医療保険は全国どこでも使えるが、**介護保険は65歳以上**で保険証が届いても、市役所で「**要介護認定**」を受けなければサービスを利用できない。

世帯分離の活用: 親子同居で世帯収入が合算されると、親の介護サービス費の負担割合が増えることがある。住民票の世帯を分ける「世帯分離」を行うことで、親の負担を軽減できる場合がある。

自立支援医療制度: 精神障害者が手帳を申請する際、同時に申請できる。精神科の通院費や薬代の自己負担が大幅に軽減される。

ケアマネジャーとの関わり:

在宅介護: 地域のケアマネが担当し、密な関係を築きやすい。

施設入居: 施設内のケアマネが担当。一人で多数を担当するため関係が希薄になりがち。



今月の聖句に寄せて (2026年7月)

50年も以前のことにになりますが、私が武蔵野 YMCA の主任主事をしていた時、市民運動から生まれた、障がい種別を問わない「障がい者の共同作業所」の運営委員長を引き受けていたことがありました。作業所には、学習ボランティアとして東京大学の「ボランタス」という名前の学生同好会が定期訪問してくれていました。実は、この名前、結果的に私が名付け親になっていたということでした。学生に頼まれ「ボランティア」について話した時、ボランティア「volunteer」の語源は、ラテン語のボランタス「voluntas」に由来し、「意志」、「自発性」といった意味であること、さらには、神様の「御心(みこころ)」という意味で用いられ、キリスト教の世界から発信されていることなどを伝えたことで、同好会の名前になった、ということです。

イエスは病で倒れている人、傷つき弱り果てている人、差別されている女性などに限りなく心を寄せ、癒しの手を差し伸べられました。このようなイエスの行動の中から、私たちは、何が神様の「御心(みこころ)」なのか、「ボランティア」の精神を学びます。イエスは、弱り果て、打ちひしがれているのを見て「深く^{あわれ}憐れまれた」、とあります。この「深く憐れむ」という言葉のギリシャ語の語源には、「はらわた」という意味があるということで、「断腸の思い」という意味をもっているということです。とても強い苦しみ、悲しみ、痛み、憐れみを表している言葉で、イエスがいかに人間の苦しみ、悲しみに寄り添い、その痛みを分かち、共にして下さっていたのかを知ることができます。

私達は、人間として、このようにイエスが「深く憐れまれた」御心(みこころ)にならい、ボランティアの精神をもって自らの力でできる、何かをなしていきたいものと思います。

並木信一



高尾わくわくビレッジ便り

館長 西嶋健太

梅雨空の合間に夏の日差しがのぞく季節となりました。皆さまには日頃より高尾の森わくわくビレッジの活動に温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

6月は、令和7年度(2025年度)の事業について東京都への報告を行いました。各事業について確認をいただきましたが、特段の指摘事項はなく、特に社会教育事業につきましては高い評価をいただくことができました。子どもたちの健やかな成長を支える体験活動や、地域とのつながりを大切にした取り組みが評価されたことを大変嬉しく思っております。これからも東京都が抱えるさまざまな社会課題の解決に貢献できる施設を目指し、一つひとつの事業に真摯に取り組んでまいります。

また、近隣地域ではクマの出没情報が相次いでおり、高尾の森わくわくビレッジ周辺でも目撃情報が確認されております。当館では利用者の皆さまの安全を最優先に考え、事業継続計画(BCP)の整備を進めるとともに、熊の出没を想定した対応訓練を初めて実施いたしました。当日は八王子市獣害対策課の職員の方にもご協力いただき、実際の発生を想定した訓練を行いました。終了後の振り返りでは、多くの改善点や気づきが共有され、有事の際により適切な対応ができるよう、職員一人ひとりの防災意識を高める貴重な機会となりました。

一方で、館内では夏休みのプログラムに向けた準備も着々と進んでおります。毎年、多くの子どもたちが自然体験や宿泊活動を楽しみに来館されます。今年も安全管理を最優先に、一人ひとりにとって心に残る学びと出会いの機会となるよう、職員一同準備を進めております。豊かな自然の中で仲間と過ごす時間が、子どもたちの成長につながる夏となるよう努めてまいります。

これから本格的な夏を迎えます。皆さまからいただく温かいご支援に感謝しながら、高尾の森わくわくビレッジは、安心・安全な環境のもと、子どもたちの未来を育む活動を続けてまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

*写真はVIVISTOP Waku Villeでロボットを使ってサッカーをしている様子です。



写真は VIVISTOP Waku Ville でロボットを使ってサッカーを楽しんでいる子供たち

ひつじぐも便り

中央大学 経済学部2年
ひつじぐもサークル 程 大龍

こんにちは、中央大学経済学部2年、ひつじぐものワイズ係所属の程大龍です。そろそろ真夏が訪れる時期になりましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。気温が高くなる日も増えてきましたので、熱中症対策には十分注意しましょう。

6月は新歓活動がひと段落する時期です。新しいメンバーが入会届を出してくれて、とても嬉しく思いました。5月に比べると活動はやや少なめでしたが、児童館での活動やゴミ拾い、デイキャンプなど、様々な活動を行いました。また、私は中間テストがあり、少し忙しく感じることもありましたが、活動に参加することで良い気分転換にもなりました。

さて、ひつじぐもの6月の活動についてご報告させていただきます。今月からは新メンバーも加わり、フレッシュに活動しました。

6月20日には、日野市みさわ児童館主催のデイキャン



プがありました。当日は雨でしたが、天気になげず、子どもたちは元気いっぱい活動していました。屋外での謎解きや、晩ご飯のインディアンドッグ作り、焼きマシュマロなど、普段とは少し違う体験と一緒に楽しむことができました。その姿を見て、私自身もたくさん元気をもらいました。6月25日には、2026年度初めてのひつじぐも定例会を行いました。活動の振り返りや今後の予定について共有し、ひつじぐもの幅広い活動情報を確認しました。

その他、予定していたゴミ拾い活動が台風の影響により中止となるなど、天候の影響を受けながらも、オンラインミーティングや室内での児童館活動に取り組みました。6月は中間テストもあり、メンバー全員少し忙しい時期でしたが、ひつじぐもの活動を通して多くの人と関わることができました。

東京 YMCA 便り

担当主事 西嶋健太

1. 全国のYMCAでは40年余りにわたり水上安全教育に取り組んでいるが、その一環として今年度も6月に「ウォーターセーフティーデー」を一斉に実施する。東京YMCAでは東陽町センターと山手センターで6月21日に、ウェルネスガーデン品川御殿山では6月28日に、幼児・小学生の親子を対象に、着衣泳体験や心肺蘇生法を学ぶプログラムを開催。また水上安全の知識を子ども向けに紹介している「ウォーターセーフティーハンドブック」を近隣の小学校、幼稚園、保育園等に約23,000部無料配布した（東京YMCAのHPからもダウンロード可）。
2. 5月30日、男子学生寮「山手学舎」の入舎式が行われ、2人の新舎生の入舎を祝った。
3. 5月中旬より夏期キャンプ・スクールの申込受付を開始した。キャンプは9コースが設定され、多くの申込が寄せられている。今回も「フレンドシップファンド」により、経済的に困難なご家庭には、キャンプやプールスクールの参加費を補助する。また、今年度は山中湖センターにて、家族対象のファミリーキャンプ、児童養護施設対象のキャンプ、リーダーOBOGやワイズメンズクラブ等を対象としたリユニオンキャンプの実施を予定している。なお、6月19日～21日に野尻リーダートレーニング、6月26日～28日に山中リーダートレーニングが実施される。
4. 小学3年生から高校生を対象とした海外交流プログラム「ダイナミックサマー」（北米YMCAのキャンプ体験）は11コースが設定され、6月21日から「Camp Erdman in ハワイ」がスタートしている。
5. 今後の主な行事予定
 - ・「早天祈祷会」7月1日（山手センター／オンライン）
奨励：榊原 正人氏（東京YMCA理事）
 - ・「日本YMCA同盟協議会」6月20日～21日（日本YMCA同盟東山荘）
 - ・「第21回世界YMCA大会」7月19日～7月25日（カナダ・トロント）
 - ・「外国にルーツのある子どものサマーキャンプ」8月21日～23日（山中湖センター）
 - ・「第40回インターナショナル・チャリティーラン」
駅伝大会：9月26日（都立木場公園）
オンラインウォーキング大会：11月下旬～12月上旬
6. 関連団体の動き
 - ・山梨YMCA80周年式典 6月27日 会場：山梨YM

今月の例会報告

2026年6月第一例会・報告

長谷川あや子(書記代行)

・2026年6月第一例会

日時:2026年6月13日(土)18:00~20:00

場所:北野事務所大会議室

出席者:(A)稲葉、並木真、長谷川

(B)久保田、久保田佐和子、花輪、望月

(C)大久保、山本、西嶋

卓話者:峰 毅ワイズ(東京多摩スマイル)

ゲスト:酢屋善元

ビジター:篠原文恵、本川悦子(東京西)、

小原史奈子(東京たんぽぽ)

ひつじくも:霞ひかる(合計16名)

卓話:「知らないで損する福祉の手続き、事前に知っておきましょう〜たいせつな家族が倒れた時にあわてないよう〜」峰 毅ワイズ

スマイル:13,500円

(報告)

・東京西クラブ50周年記念の集まり

—稲葉、久保田、長谷川

・第29回東日本区大会—石巻河北総合センター

久保田、久保田佐和子、並木真、西嶋、長谷川

☆最優秀ブリテン賞 ☆出席率優秀賞

☆ハンドロップ賞

・2026年6月第二例会は台風最接近のため中止

本日のビジターの方からの一言発言

霞ひかるさん(中央大学・ひつじくも):

ひつじくもは新入生勧誘活動(新歓)を実施。バーベキューなどのイベントが功を奏し、現時点で20名超の1年生から入会申し込みがありました。

私の委員長任期は残り約4ヶ月であり、新入会員の定着と活動参加を促すことが今後の課題となります。

篠原文恵さん(東京西クラブ)

(障害への理解):

ファミリーサポートの経験から、健常児でない子供を早期に見出すことの重要性を認識。自身の孫に障害の可能性を感じ、先回りして障害理解に関する本を娘に渡したところ、かえって気分を害されたという経験が共有された。他者への介入の難しさを示唆している。

本川悦子さん(東京西クラブ)

(認知症への備え):

自身の認知症を現実的なリスクとして捉え、具体的な対策を講じている。

緊急時に備え、情報を記載したカードを携帯。

困った際の相談先として「地域包括支援センター」を認識。

小原史奈子さん(東京たんぽぽYサービスクラブ)
(認知症サポート): 講座で得た知識を、家族や知人への対応に活かそうとしている。「気分を害さないような話し方を」という具体的な心構えが形成された。」

7月ご誕生されたメンバー

花輪 宗命さん 7月8日

稲葉 恵子さん 7月24日

5月の誕生祝い



望月隆珉ワイズ 5月7日

望月令子メネット 5月25日

次号予告

東京町田コスモスクラブ 創立30周年記念例会

